

圏外のアンテナ

[身体で教えて]の巻

またしても、大きな自然災害が日本を襲った。被害に遭われた方の日常が、1日も早く戻りますように。

そんなタイミングで、地域の救命講習会の順番が廻って来てしまった。会場には100人ほどの老若男女が集合。

壇上で説明する講師から、心臓マッサージ＝胸骨圧迫のやり方と、AED（自動体外式除細動器）の使い方を教わった。

配られた練習用キットの袋の中には、人体が描かれたシート「あっぱくん」と、ピンク色のハート形クッションが入っている。

始めは心臓マッサージの練習である。「ここにハートを置いてください」と書かれた文字の上に心臓を模したハートを置いて、何度も何度も、それを押す。

しっかり強く押した時だけピコピコと音が出て、力の入れ方がわかる仕組みである。

だが、練習を続ける内に、わたしはだんだん不安になってきた。「ハートマークにハートを置いて。はい押して」という練習に、もどかしさを感じ始めたのである。現実には、何を目印にして押せばいいのだろうか？ 不安が募って、AEDの練習後、後片付けをする講師に、にじり寄っていった。

「先生、もし、わたしが倒れていたらどこを押しますか。具体的に教えてください」と聞くと、「ここです。目標は、乳首と乳首の真ん中です」と、先生は、わたしの胸の間をおずおずと指さした。「それは男女どちらも？」「そうです」

聞いてよかった！ だいたいあの辺り、なんて適当に覚えていた日には、きっと胃の辺りを思いっきり押したりして、大変なことになっていましたよ。講師の先生、最初からそのキーワードをいってくれれば、いいのに……。

皆さんも、誰かにモノを教える時は、キットを使った練習で十分だなどと考えずに、すべきことの肝を、身体で教えてやってください。

そう。それが、現場主義。

皆の最後に修了証を受け取って、会場を後にした。この知識が役に立つ日が来ないことを、祈りながら。

=2018年9月14日掲載=



運動会で校庭に敷くようなビニールシートに、人体の絵が描かれた「あっぱくん」